

SUPER GT 2016

ポールポジションから開幕！ 2戦連続で表彰台獲得！

ついに開幕を迎えた「2016 SUPER GTシリーズ」。一昨年、昨年とシリーズ優勝を射程圏内に収めながら、惜しくも栄冠を逃したKeePer TOM'S RC Fが、悲願の優勝に向けて開幕から2戦連続で表彰台獲得の好スタートを切った！



第1戦 岡山国際サーキット

予選 4/9(土) 決勝 4/10(日)

シリーズ優勝へ期待が膨らむ、開幕2位発進！

「2016 SUPER GTシリーズ」をポールポジションで迎えた「KeePer TOM'S RC F」。トップスタートのアドバンテージをいかし、開幕戦を2位でフィニッシュ！ 次戦へとつながる戦いを見せた。

予選でPP獲得 トップで決勝スタート

気温20℃、路面温度26℃。時折、柔らかな日差しが差し込む、春の陽気に包まれた岡山国際サーキットを舞台に「スーパーGT2016シリーズ」が幕を開けた。今シリーズ、「KeePer TOM'S RC F」37号車を託されたのはジェームス・ロシター選手と平川亮選手。決勝前日の公式予選では見事ポールポジションを獲得するなど、幸先の良いスタートにシリーズ優勝への機運が高まる。

そして迎えた決勝当日。白バイ隊先導のパレードラップを経て、2016年シリーズがついに開幕した。ポールポジションの37号車はロシター選手が抜群のスタートを見せ、第1コーナーをトップ通過。さらに周回を重ねることに後続との差を広げ、14周終了時には2位と4・5秒差をつけてトップを快走する。

しかし、そのままでは終わらないのがGTレースの難しさ。順調に首位を走行していた37号車に対して、徐々にライバル車が差を詰めてくる。27周終了時には、昨年度シリーズチャンピオンのGT-R 1号車が2位に順位をあげ、毎週約1秒も早いタイムで37号車を追走する。

その後、1・4秒差までタイム差を縮められた37号車は、36周目を迎えたところで予定通りピットイン。昨日のポールポジションの立役者である平川亮選手にステアリングを託し、再スタートを切った。

首位を譲るも、 追撃をかわし2位を死守

一方、2位の1号車も39周目にピットイン。すると、続きざまにGT500車両の各マシンがルーティーンのピット作業へ。それまで首位を堅守していた37号車だったが、全車がピットストップを終えた時点でGT-R 1号車にラップタイムの速さで逆転を許し、ついに首位の座を明け渡してしまう。同時に、この時点で優勝争いが上位4台に絞られることに。

開幕戦から緊迫のレース展開が繰り広げられるなか、2位を走る37号車の平川選手は猛然とGT-R 1号車を追走。しかしその差はなかなか縮まらず、逆に徐々に広がっていく。レース中盤に入った52周目には、4位のGT-R 46号車が3位のRC F 6号車を抜き3位に浮上し、さらには37号車にも迫る勢いを見せる。1秒以上早いタイムで後方から迫る46号車は、レース終盤の73周目には37号車との差を0・6に縮めるまで接近。それでも平川選手は落ち着きを見せず、レースを続行。一時は3位転落を思わせるも、ラップタイムで勝る46号車の追撃を巧みなドライビングテクニックでかわす。その後は首位奪取こそならなかったものの、そのままチェッカーを受け、開幕戦を2位でフィニッシュ。今年から導入されたポールポジション獲得の1ポイントと順位加算の15ポイントを合わせ、16ポイントを獲得した。

予選9位スタートも 徐々に順位をあげる

開幕戦2位と順調なスタートを切った「KeePer TOM'S RC F」37号車。過去シリーズに身をもって経験した「開幕戦の優勝者はチャンピオンになれない」というジンクスをブラス要素にとらえ、静岡・富士スピードウェイでの第2戦に臨む。

朝方までの荒れた天候が嘘のように晴れ渡ったサーキットは、予戦時から気温・路面温度ともにぐっと上昇。徐々にチームが想定した温度に近づくなかで計500km・110周の決勝レースが始まった。

開幕戦に続き、スタートドライバを務めるのはロシター選手。予選9位と出遅れた37号車は、上位を狙うには苦しいポジションからの決勝レースだったが、他車に囲まれたなかでもしっかりとスタートを決め、8周目には早くも7位に浮上し、さらなる期待を予感させる。しかし順調な走行を見せる37号車に対して、ここで開幕戦2位のウエイトハンディ32kgが重くのしかかる。一時は6位の15号車に3秒差まで追い上げるも、ハンディ0kgの同車に比べてマシン状態は明らかに劣る。次第に差が広がっていく。その後、31周目を迎えた頃からソフトタイヤを選択したマシンが続々とピットイン。36周目にピットインした37号車は、メカニックの素早い作業で全車ピットストップを終えた時点で15号車をパス。6番手で平川亮選手にチェンジし、前を走る39号車を追う。

チーム戦略が功を奏し、 3位の表彰台を獲得

一進一退の攻防が続くなか、レース終盤に差し掛かった72周目にホンダ100号車のリアタイヤがバースト。部品が散乱したため、セーフティーカーが導入されることに。結果的に、このアクシデントがソフトタイヤで予選に挑んだ各車の悲運を招くことになる。今年から適用となった、セーフティーカー走行中のピットイン禁止という新ルールのもと、早期ピットインをした各車はベナルティー覚悟でのピット給油作業、ガス欠によるストップやリタイアなど、トラブルが続出。一方、前日予選でのタイヤ選択が追い風となった37号車はこの隙をついて4位に浮上。その後、セーフティーカー走行が終了した80周目に予定通り2回目のピットストップを終え、再びジェームス・ロシター選手が表彰台を目指し、最後の追撃を開始する。

前を走るのと同じレクサス勢の39号車。ウエイトハンディ8kgの同車に対して32kgを負う37号車だが、必死に食らいつく。しかし、なかなか差を縮められないまま残り3周を迎える。すると、ここでトップを走るGT-Rのリアタイヤがバーストし、まさかのリタイア。自動的に3位浮上した37号車はそのままフィニッシュ。開幕から2戦連続で表彰台獲得を達成した。この結果により、シリーズランキングも2位をキープ。次戦は、持ち越しとなった表彰台中央を目指す。

2016年度スーパーGT スケジュール

第4戦 スポーツランドSUGO(宮城県) 公式予選 7/23(土) 決勝 7/24(日)
第5戦 富士スピードウェイ(静岡県) 公式予選 8/06(土) 決勝 8/07(日)
第6戦 鈴鹿サーキット(三重県) 公式予選 8/27(土) 決勝 8/28(日)
第7戦 チャンインターナショナルサーキット(タイ) 公式予選 10/08(土) 決勝 10/09(日)
最終戦 ツインリンクもてぎ(栃木県) 公式予選 11/12(土) 決勝 11/13(日)

「#37 KeePer TOM'S RC F」応援 企画 第1弾

スーパーGT第4戦 スポーツランドSUGO(宮城県) 7/23(土)・24(日)
 スーパーGT第5戦 富士スピードウェイ(静岡県) 8/6(土)・7(日) ※東京のハガキにて応募ください
観戦チケット(予選・決勝共通券)を各戦ペア20組40名様にプレゼント

キーパーコーティングをご愛顧の多くの皆様をスーパーGTにご招待します!「KeePer TOM'S RC F」のピット前スタンド席を譲取り、そこのキャップで盛り上がりましょう!

※各会場までの交通費は各自負担をお願いします。
 ※当選者の発表は、発送をもってさせていただきます。

この企画に関するお問合せは・・・KeePer技研(株) ☎0120-517-158

開幕戦の優勝者はチャンピオンになれない! このジンクスを信じてシリーズの頂点をめざす!



ジェームス・ロシター
 ポールポジションからトップを快走する気分は最高でした。マシンもタイヤの調子も良く、タイヤが温まり次第ファステストタイムを叩き出すことができました。GT300クラスのマシンをパスする際にタイムを落としてしまうことはあったけれど、トップを維持したまま平川(平川)にバトンタッチすることができました。優勝はできなかったけれど、速さを示せたと思います。開幕戦2位は悪くない結果と納得しています。



平川 亮
 勝てなくて悔しいです。コースに復帰して2位。そこから何とか追いつけたのですが、GT300クラスのマシンをパスするときにラインを外すどうしてもコース上のタイヤカスを拾ってしまっ、タイヤのトレッドが接地していないような感覚でちょっと辛い走行でした。終盤GT-Rが追って来ましたが自分の走りには満足すれば抜かれないと思っていたので、最後まで順位をキープすることができました。